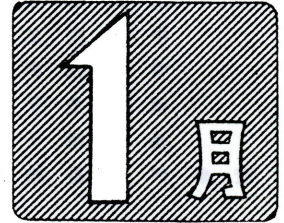


# KYOTO MUSICIAN

京都音楽家クラブ

会 報

第 1 号



かねてより京都在住の音楽家また音楽関係者たちが楽しく語りあいのできるクラブのような団体を結びたいと待望されておりました。漸く機が熟しまして皆様にお集りを願い、クラブを発会させることができましたのは御同慶のいたりです。

創立総会は一月三日午後十二時半、京都ホテルに於て催しました。すでに会員数は116名に達しており、京都の楽壇人の話題はこのクラブからということになりつゝあります。

どうか会員の皆様は自分の客間と考えられてこのクラブを発展させることに御協力下さるよう、また未入会の方々にクラブの趣旨を話されて、御勧誘下さるよう御願いたします



1月3日には京都ホテルに於て、  
当クラブの創立総会が催され、京  
都楽壇にとつて意義深い第一歩が

踏み出されました。当日の出席者は102名。

まず発起人を代表して上村けい女史より当日までの準備経過の説明があり、ついで議長に藤堂顯一郎氏を満場一致で推薦して議事に入りました。そして長廣敏雄氏の規約案の説明、委員選任と議事を進めました。

委員の選任については二・三の案も出されましたが、結極初期のことでもあるので、取り敢えず一期間は発起人での声が強く、満場一致でそのように決定されました。(氏名別掲)

終つて長廣敏雄氏より「市民会館建設提進」の経過報告がありましたが、席上当クラブ発

足の日に当つて、それを再確認し、建設の一日も早からんことを決議することを可決して和氣あいあい裡に散会しました。

## 決 議 文

京都市長 高山 義 三 殿

「京都市に市民会館(公会堂)の建設が一日も早く実現することを切望します」

京都音楽家クラブの創立総会に於て右決議  
します 昭和31年1月3日

尙、續いて三時より有志によるお正月のパーティーが行われ、阪神方面よりもゲスト数名参加をみて楽しい時を過しました。——京都音楽家クラブはみんなのものです。みんな  
で育てるようにならねば。——

## 31年度委員

委員長	藤堂 顯一郎		
委員	上村 けい	竹内 てい	
	長広 敏雄	山田 忠男	
	梅田 しづ	高橋 半	
	中川 牧三	桜井 武雄	
	中原 都男	福本 正	
	坂根 豊子	林 二郎	
	鳥井 晴子		
監事	田中 昌雄		

仮事務所 十字屋楽器店 (三条寺町東)

電本 ② 3722

## 集会のおしらせ

1. クラブ・ルームを京都ホテル中二階ロビーに設けました。会員の方々は毎週火曜日午後一時～午後五時の間、自由にお越し下さい(当日、委員がルームに来ています)。
2. 毎月一回定例午餐会(会費350圓)は十二時半から一時半まで一時間、各方面の方々をゲストとして御招きして、講演または演奏をお願いする予定です、是非御出席下さい。

二月 第一木曜 三月 第一金曜

四月 第一土曜 五月 第一月曜

六月 第一火曜

## 会 員 氏 名 (順序不同) 計116名

佐々木 太郎	本田 睦	大浦 新三	鳥井 晴子	北 知也
汐見 清子	菅野 瑛子	吉田 輝子	山田 道子	岩田 澄子
土屋 徳藏	今津 寿美	飯尾 恭子	小倉 理三郎	東 貞一
栗林 正晴	内藤 夏五	今井 愛	長広 敏雄	中原 都男
玉城 嘉子	小堀 八重子	近藤 義次	折島 かいほ	加藤 明子
梅本 堯夫	林 彌生	有賀 のゆり	加藤 貞子	加藤 雅子
山本 徹	藏田 春平	木村 作治郎	石野 ふみ	都田 更子
沢田 秀雄	高橋 半	今井 春子	中川 牧三	上村 けい
坂根 豊子	小野 直養	秋葉 カホル	加藤 美都子	山本 民子
高橋 美智	山根 毅	桜井 八郎	大倉 治子	川手 一郎
増田 勇三	内藤 花子	山田 宗二郎	山本 寿子	杉原 みち子
中原 昭哉	吉田 栄治	前田 佐紀子	高橋 恒治	小川 スミ子
樋口 昌道	田野辺 のり子	尾見 八重子	坂田 衛	新実 愛子
鴛淵 紹子	綱代 栄三	伊藤 貞亮	田代 セキ子	藤堂 顯一郎
堀場 信吉	西村 幸子	安田 定夫	田中 京子	本田 喜美
林 二郎	島崎 清子	小島 まさ	音川 仙三	国村 美保子
楯 了三	徳岡 房子	梅田 しづ	土肥 みゆき	青山 政雄
桜井 武雄	桜井 澄江	西尾 礼子	藤田 ゆき	服部 百代
石田 良三郎	田辺 一郎	松田 さかえ	竹内 禎子	永山 寿
宝光井 公雄	林 規子	紅花 つどひ	淡中 淑子	正田 良子
川口 敬子	福本 正	元浜 綾子	小幡 加代	上村 英夫
吉田 恒三	宝 とも子	野間 瑠璃子	中堀 愛作	野村 芳雄
山田 忠男	福原 怜子	松浦 律子	加藤 るり子	平井 善次
田中 昌雄				

## 京 都 音 楽 家 ク ラ ブ 規 約

昭和三十一年一月

1. 本クラブは京都音楽家クラブと称する
2. 本クラブは作曲家・演奏家等の音楽芸術家および音楽関係者の親睦をはかりその利益をまもり、併せて緊密なる連絡と協力とにより、京都音楽文化の振興に寄與することを目的とする
3. 本クラブは前条の目的を達するのに必要と認める左の事業を行う
  - (1) 音楽の創作活動ならびに演奏活動の促進、また新人の育成
  - (2) 内外音楽家との友誼的交歓
  - (3) その他本会の目的達成に必要な事項
4. 本クラブの事務所は当分の間、十字屋楽器店（中京区三条通寺町東）内に置く
5. 本クラブは京都在住（または京都に職場をもつ）音楽家および音楽関係者を以て会員とし、これを組織する
6. 本クラブは次の役員を置く
  - (1) 委員長 一名
  - (2) 委員 若干名
  - (3) 監事 一名
7. 委員は総会において会員の互選により定め、委員長は委員会において委員の互選により定める
8. 役員の仕事は次のように定める
  - (1) 委員長は本クラブを代表し、事務を総理する
  - (2) 委員は委員会を組織し、本クラブ運営についての事務を処理する
- (3) 監事は委員長が会員中より委嘱し、会計を監査する
9. 役員の仕事は一年とする、但し重任を妨げないが連続二期以上当ることができない
10. 本クラブの会議はクラブ総会および委員会とする
11. クラブ総会および委員会は、それぞれ、その総員の半数以上が出席しなければ議決をすることができない
12. 議事はすべて出席者の過半数で定める
13. 本クラブ総会は年一回定期的に委員長が召集する、但し必要ありと認めるときは委員長は臨時に召集することが出来る
14. 委員会は必要に応じ、委員長が召集する
15. 委員長は委員会の議長となる
16. 本クラブ会員になるには、会員の二名以上の推薦により、委員会の承認を得なければならない
17. 会員は年会費 1,000円を納入するものとする
18. 本クラブの経費は会費、寄付金およびその他の収入を以てこれに当てる
19. 本クラブの会計年度は毎年一月一日から始まり全年十二月三十一日に終る
20. 本規約の変更はクラブ総会において出席者の三分の二以上の賛成を得なければならない

以 上

## 原 稿 募 集

毎月一回クラブ会報を発行致します。

今回の第一号は急ぎましたため皆様の御投稿を頂けず発行致しますが、次号からは是非お願い致します。

締切は毎月廿日です。

御所感、御希望、ニュース、写真等、御送り下さい。今月は第四面へ「音楽新聞」の記事を轉載致しました。

## 二 月 の 音 楽 会 御 案 内

田 村 宏 歸朝・京 都 演 奏 会  
 二月 四 日 (土) 午後七時  
 同 志 社 榮 光 館  
 京 都 市 立 音 楽 短 期 大 学 発 表 音 楽 会  
 指 揮 カール チェリウス  
 二 月 二 十 日 (月) 午後七時  
 ヤ サ カ 会 館  
 歌 劇 「椿 姫」 三 幕 四 場  
 主 演 藤 原 義 江  
 指 揮 M・グ ル リ ッ ト 二 月 二 十 五 日 (土)  
 演 奏 關 西 交 響 楽 團 二 十 六 日 (日)  
 合 唱 關 西 歌 劇 團 合 唱 部 午 後 二 時 ・ 六 時  
 舞 踊 東 京 バ レ エ 協 会 大 阪 歌 舞 伎 座

## ウィーン交響樂團と シュツツガルト室内樂團の來朝決る フランソワ・ローゼンストツクも

昭和三十一年の樂壇も又海外演奏家の來日でにぎやかになりそうな形勢である。既に決定したドン・コザツク合唱団の他に、新たに決定した所ではウィーン・フィルハーモニー管絃樂團と、シュツツガルト室内オーケストラの來朝が決定した。又昨年来日中止となつたフランスのピアノスト、サンソン・フランソワと、元N響指揮者ローゼンストツクの來日も決定した。

まず「ウィーン・フィルハーモニー管絃樂團」は、朝日新聞の招きで今春四月初め來日し、四月九日から三週間にわたり、全国主要都市で演奏会を開催する。

同管絃樂團は一九四二年に創設され、以来毎シーズン八回の定期演奏会と一回の臨時演奏会を催している。これまでに同管絃樂團を指揮した主な人は、マーラー、R・シュトラウス、ワインガルトナー、ワルターなどで戦後はフルトヴェングラー、カラヤン、ベーム等を迎えており、その他メンゲルベルク、クナツベルツツシュを始め著名な名指導者も極めて多い。指揮者は樂員よりなる委員会により決定するが、今回は著名な作曲家パウル・ヒンデミット（一八九五）を指導者として約五十名が來日する。この管絃樂團は欧州有数の伝統的樂團で演奏技術に於て世界最高の水準を示すものであることは今更云うまでもない。

一方、「シュツツガルト室内オーケストラ」は読売新聞社の招きで三月月上旬來日し、東京を初め全国主要都市で十五回にわたり演奏会を開く豫定である。この室内管絃樂團は一九四五年にカルル・ミュンヒンガーがドイツとオーストリアの優秀な音楽家を厳選して彼の故郷南独シュツツガルトに組織した樂團で、歴史的には新しい演奏団体であるが、既に欧米各地で千回以上の演奏会を開いており古典曲に極めて優れた演奏を聴かせる。その演奏するバッハ、ハイドゥン、モーツァルト、グイヴアルディ等の室内オーケストラの完璧な演奏は我が国では初めて迎えるものであり、樂壇の期待は大きい。前売は今月下旬の豫定、金額は決定していない。

又昨年来朝豫定つたフランスのピアノの第一人者サンソン・フランソワは病気で中止となつたが、毎日新聞の招きで今回病氣も全快して今年の十月末來朝し、十一月初めから約一ヶ月全国主要都市で演奏会を開く。彼は一九二四年生れ、今年三十一歳。十三歳にしてアルフレッド・コルトーの主宰するエコール・ノルマルに入り「リサンス・ドウ・コンセル」の称号を得、十六歳でマルグリット・ロンの弟子としてパリ音楽院でブルミエ・プリを獲得、更に十九歳でロン＝ティボー・コンクールの大賞を受けた程の優秀なピアノストであるが、経歴的には「神童」的な所が在り乍ら神童にありがちな指先の器用さに頼つた外面的な空虚な華麗さに陥らず、深い内面性も表現している。

以上の他に、元N響の指揮者ローゼンストツクが三月十二日頃米日、ニューヨーク・シティ・オペラの開幕に一時歸米するが、四月十五日に再び來てN響を指揮し、二十回の放送を三十二回演奏会を開く事が豫定されている。

## ラスカラ座中心の歌劇團 今秋來朝決る

### ブリツテン・ジンバリストも噂

まず九月か十月に來朝の決定したイタリア・ミラノ市の「ラ・スカラ座歌劇團」は、NHKの招きで來朝し、東京、大阪などでN響と協演に依つて、ヴェルディその他の本格的オペラを上演することになつた。ラ・スカラ座と云えば今更紹介する迄もなく、世界最高の伝統的オペラ団であり、その來朝には多大の期待が寄せられている。メンバーとしては、指揮者その他関係者十五名と、歌手十六名が豫定されており、プリマ・ドンナその他の顔ぶれは近日中に伊太利政府から発表されることになっている。

尚、NHKでは、一応希望の歌手を通知したが、最終決定は伊太利政府がするので希望通りの歌手が来るかどうかは疑問であり、また、世間ではスカラ座そのものが來朝する様に云つているが、これは「スカラ座専属の歌手、スタッフが中心となつて」來朝するのであつて、スカラ座自身ではない、と云つている。

とに角、イタリアの本場の世界的なオペラ団が歌手、スタッフをそろえて來朝することは我が国初めてのことであり、それに依つて本格的な雰囲気のあるオペラの上演はわが樂團にも計り知れない影響を興える事は必然で、オペラファンにとつてのみならず、音楽ファンなら余て多大の期待を寄せるものであろう。

次に二月頃に英國の作曲家ベンジャミン・ブリツテンが二月頃、観光旅行の途中我が国を訪れることが決定している。然しこれは以前のアンドレ・コステラネツツの例もあることだし、ブリツテンが交響樂團の指揮台に立つことは大いにあり得ることである。一九一三年生れのブリツテンは、既に二期会の「ルクリーシアの凌辱」の上演で我が国でもよく知られた作曲家で、他にも歌劇「ピーター・グライムス」を初め多くの作品を発表している英國の注目すべき作曲家であることは論を俟たない。

次に、これは噂であるが、ヴァイオリンの巨匠エフレム・ジンバリストが今年の四月來朝すると云われている。ジンバリストは一八八九年ロシアのロストフに生れた人で、非常に優れた演奏家であると同時に、教育家でもあり、多数の優れた演奏家を育てあげた人であり、その來朝も期待される所である。

尚、ローゼンストツクは三月十二日來朝、三月十七日（六時半）日比谷、二十一日（六時半）産経ホール夫々N響を指揮して特別公演を行う。